

2009年3月29日(日曜日)

平成21年度当初予算 総額4,808億円 11年ぶりに増額予算

西川知事の2期目の折り返しとなる県の平成21年度当初予算が、先の2月定例県議会で可決、成立しました。一般会計の総額は4,807億74百万円余。昨年度の当初予算に比べ3.7%増加しており、11年ぶりに前年度を上回る予算となっています。

今回の予算は、大変厳しい経済・雇用情勢の中、今一度「元気」を取り戻し、県民一丸となって一日も早く県内経済の回復を目指すため、経済・雇用対策に重点をおいた不況対策を第一とする予算としました。

予算の概要

21年度当初予算のポイント

- 新年度の一般会計の予算総額は4,808億円に対前年度比3.7%の増、予算規模が前年度を上回るのは、平成10年度以来11年ぶり
- 当初予算と2月補正予算を一体として編成、事業規模740億円(予算総額274億円)の経済・雇用対策を実施
- 職員数の削減や手当の見直し等により人件費を32億円削減するなど、引き続き徹底した行革を実施
- 歳入は、県税収入が法人2税の減を中心に251億円減の906億円となり、平成11年度以来の大幅減
- 県債は224億円増の883億円を計上。増加の要因は交付税措置される臨時財政対策債の発行額の増であり、財政健全化の指標は、大きく悪化しない見込み
- 収支不足が生じる部分について98億円の基金を取り崩して対応。21年度末の基金残高見込みは143億円となり、新行革プランの想定額を確保

財政の規律を保ちながら、積極的な経済・雇用対策を実施

予算の規模(千円以下は切捨て)

会計区分	21年度当初予算額	対前年度比(20年度当初)
一般会計	4,807億7,383万円	103.7%
特別会計	185億5,521万円	114.9%
企業会計	281億9,851万円	94.4%
計	5,275億2,756万円	103.5%

主要事業

経済・雇用対策に重点

I 経済・雇用対策 悪化する経済・雇用情勢に対応して、県民が元気を取り戻す対策を迅速に実行していきます。

4つの柱

- 1 14,000人の雇用を維持・確保する「雇用対策」
- 2 経営安定資金の融資枠の500億円確保などによる「中小企業の経営安定」
- 3 前年比30%増の県単独公共事業の実施などによる「県内経済の活性化」
- 4 学校施設等の耐震化の促進などによる「県民生活の安心確保」

1 雇用対策

雇用環境が急速に悪化する中、雇用創出のための基金の活用や離職者等の職業訓練の拡充等により、2,650人の新たな雇用を創出します。

また、雇用の維持を図る企業に対する助成や公共投資の追加等により、11,350人の雇用維持を図り、合わせて14,000人の雇用を維持・確保します。

新たな雇用の創出

国からの交付金を財源に総額約60億円の基金を設置して、一時的な雇用に加えて、介護や農林水産業分野などで雇用機会を創出し、将来の就業につなげます。

また、求人と求職のミスマッチを解消するため、離職者を対象とした職業訓練の定員を倍以上に拡充するとともに、訓練中は受講奨励金を支給する県独自の制度を創設します。

雇用の安定・維持

従業員を一時的に休業させながら雇用を守ることに努力している企業に対し、国の助成に加えて、県が独自に上乘せ助成する全国初の支援策を導入します。

雇用対策の体制整備

ジョブカフェによる就職支援の強化や緊急就職説明会の開催など、相談支援体制を強化します。

また、福井労働局と共同で「福井県求職者総合支援センター」を設置し、ハローワークと一体的に生活・就労相談を行い、求職者の生活の安定と再就職の促進を図ります。



職業訓練の様子



離職者のため就職説明会を開催

雇用に関する各種施策や相談窓口の情報は **福井県 緊急雇用**

2 中小企業の経営安定



「省エネ・コストダウン」セミナー



県外大手企業との展示商談会



AOSSA市で地場産品を販売

売上げや受注の減少等により厳しい経営環境にある中小企業の資金繰りを支援するため、経営安定資金の融資枠を拡大します。

また、省エネルギー・コストダウンへの支援により経営体質の強化を図るほか、新たな販路開拓や県内消費の拡大につながる事業を積極的に実施します。

資金繰り支援

年度末の資金需要に応えるため、経営安定資金の融資枠を2月補正で増額して500億円とし、また、新年度当初においても500億円の融資枠を確保し、県内中小企業の資金繰りを切れ目なく支援します。

経営体質の強化

中小企業者を対象に、相談会の開催、専門家派遣による診断・調査、省エネ・コストダウンに資する設備の導入を支援します。

ビジネスチャンスの創出

農商工連携や、県外大手企業との商談会開催等による販路開拓を応援して、中小企業の受注増加につなげます。

また、ふくいの特産品等を販売する「“ふるさと消費”元気フェア」を開催し、県内消費を積極的に下支えするとともに、「地産地消」を一層広めて県産品の販路拡大を応援します。

“ふるさと消費”元気フェアの開催

1 全国植樹祭の開催に合わせ、福井駅周辺において物産展、大規模テント市を開催

「福井の技と物産展」(福井西武 6月6日～8日)

「福井グランドモール 夏の市」(福井駅前 6月6日、7日)

2 商工会議所、商工会、商店街振興組合等が企画、実施する消費拡大イベントのPR経費等に助成

3 県内経済の活性化

次の世代に引き継ぐ社会基盤について、20年度2月補正予算と21年度当初予算において緊急かつ重点的に整備を進めるとともに、経済活性化につながる観光・環境・農業等の対策を進め、本県経済の一日も早い回復につなげます。

社会基盤整備の促進

公共事業について前年度を3.8%上回る事業規模を確保し、中部縦貫自動車道など主要道路の整備を進めるとともに、橋梁の耐震化、河川の浚渫、小規模な農業

用施設の補修など、社会基盤の保全・長寿命化の事業を前倒して実施します。



3月28日に上志比・勝山間が開通した「中部縦貫自動車道」
(写真はハイウェイウォークの様子)

4 県民生活の安心確保

施設の耐震化などを前倒して実施するとともに、子育てや福祉・医療等の分野において、ハード・ソフト両面から支援策の拡充を行い、県民生活の不安を解消し、暮らしの安全・安心を守ります。

安全・安心

学校や福祉施設、民間木造施設等の耐震化を促進するとともに、ドライバー等から見えやすいよう信号機のLED化を進めます。また、高齢者や障害者が利用しやすいよう駅のバリアフリー化を支援します。

さらに、保育所の整備や妊婦健診の原則無料化などの子育て支援、消費生活相談体制の強化等を行います。



学校の耐震化

II 新たな計画（観光・農業・環境）の実行

1 新ビジットふくいの推進

21年2月に策定した「新ビジットふくい推進計画」に基づき、目玉となる観光地づくりや国内外からの誘客促進の強化などを図ることにより、25年度までに本県への観光客数を100万人増加させ、県内の観光消費額の200億円増大を目指します。

恐竜ふくい誘客プロジェクト

平成22年度の恐竜博物館開館10周年に向け、「恐竜映画館(ダイノシアター)」の整備など展示内容を充実させます。また、夏休み期間中は毎日、名古屋から恐竜博物館へのラッピングバスを走らせるなど、「恐竜王国ふくい」を全国にアピールしながら県内への観光客の増加につなげていきます。

広域観光の推進

宿泊者、連泊者を増やす周遊・滞在型観光の推進により観光消費額の増大を図るため、地域資源を活用した魅力ある観光圏形成に向けた事業を支援します。

営業力の強化

コンベンション誘致の営業を強化するため「誘致支援員」を配置するとともに、コンベンション開催への助成金を拡充します。また、北陸新幹線の整備が具体化しつつある中で、JRと連携して、首都圏発福井直通観光列車「越前・若狭号(仮称)」を運行するなど首都圏での本県観光地のPRと誘客を図ります。



「恐竜王国ふくい」で観光誘客



一乗谷朝倉氏遺

2 新たな農業・農村再生計画の推進

21年3月に策定した「ふくいの農業・農村再生計画」に基づき、県民の健康と暮らしの豊かさを支える農業・農村を再生するための新たな農業振興策を実行していきます。

ふくいコシヒカリ復活プロジェクト

競争力のある福井米づくりを進めるため、「さつき半ばの適期田植え」、農薬や化学肥料を2割以上減らす「エコファーマー米」の生産を推進するとともに、集荷される米の品質・食味検査を行い、おいしい米づくりを進めます。

プロ農業者育成プロジェクト

新規就農者を地域全体でバックアップする「アグリインターンシップ制度」を創設し、産地に設置する「トレーニングファーム」でベテラン農家が生産、経営を指導します。また、認定農業者の経営支援や集落営農組織の法人化等を進め、農業で生計



おいしい福井米を収穫！

を立てる「プロ農業者」を育成します。



甘みを増した新しい
「越のルビー」

園芸・畜産の元気回復プロジェクト

越のルビーやサトイモなどを生産する園芸農家に対し、生産拡大に必要な施設の導入を支援します。また、「越前水仙」の球根植替えを支援し、水仙出荷数の増加を図ります。

消費者と支えあう農業プロジェクト

「食育・地産地消コーディネーター」を配置し、中山間地において農産物を集めて直売所等に出荷する「ふるさと畑」集荷システムの立ち上げや小・中学校の近くに学校給食に地元農産物を供給する「学校給食畑」の設置等により、食育・地産地消をさらに進めます。

ふるさと農地活用プロジェクト

小規模な農業用排水路の改修等について、補助の要件を変更し早期の改修を促進することにより、施設の機能保全、長寿命化を図ります。

また、電気柵や恒久柵の整備、本県独自の「山ざわ緩衝帯」の設置など総合的な鳥獣害対策を実施します。

3 守り育てる福井の環境

20年11月に策定した「福井県環境基本計画」に基づき、「県民の手で守り育てる美しい福井の環境」を基本目標として、地球温暖化や身近な自然・生態系の崩壊などに対し、全国に先駆けて本県独自の施策を本格的に展開し、本県の豊かな環境を次の世代に引き継いでいきます。

目に見える新しい環境への配慮

一般住宅や工業系高校など公共施設における太陽光発電の導入を促進します。また、次世代エネルギー技術の研究開発プロジェクトを着実に進めるとともに、研究分野ごとに県内企業とのマッチングを進めるなど次世代産業の育成を図ります。

県民意識を一步進める仕組みづくり

自らが排出するCO2の量に応じて資金を提供し、県内で行う植林など環境貢献活動につなげる福井型のカーボンオフセットシステムを新年度からスタートします。

また、車の相乗りや環境に優しい自転車の良さを見直すことにより車への過度の依存を減らす「クルマ利用適正化推進事業」を実施します。

環境を想い行動する子どもを育てる

地域と共働して、小中学生が里地での農業体験、山登り、海での船乗りなどの自然体験を、遠足の機会などに実施して、環境に対する子どもたちの豊かな感性を育みます。また、自然環境や生活環境について、身近な福井の動植物などを題材にわかりやすく解説した教材を活用し、環境教育を推進します。



カーボンオフセットの資金は
森林整備などに役立てられます



自転車でエコ通勤

Ⅲ 福井新元気宣言のステップアップ

元気な社会

未来を託す教育・親しみ楽しむ県民文化

“学力・体力”日本一の福井教育のさらなる向上

「元気福井っ子新笑顔プラン」に基づき、本県独自の少人数学級編成を引き続き実行します。また、高校生が学力を伸ばすための新しい指導法を研究するなど、子どもたちの能力をさらに高め、「学力・体力日本一」の名にふさわしい教育環境の充実に力を入れます。

福井子ども歴史文化館の開館

子どもたちが福井の歴史上の人物や白川静先生をはじめとする先人・達人の業績等を通して、郷土の歴史文化を「楽しく」学ぶことができる「福井子ども歴史文化館」を本年11月下旬にオープンします。

大学連携リーグ事業

県立大学など県内8つの大学等から構成する「大学連携リーグ」について、福井のまちなかに「サテライト・キャンパス」を設置します。



今秋開館予定の子ども歴史文化館

女性活躍社会

日本一の子育て応援システム

「福井県安心こども基金」を創設し、妊婦健診への助成や保育所の耐震化・増改築などを行うとともに、「放課後子どもクラブ」について、校舎や空き教室の改修工事を市町の負担なく実施できるように、制度を大幅に拡充します。また、先進性ある子育て施策により福井県がさらに全国をリードできるよう新たな子育て計画を策定します。

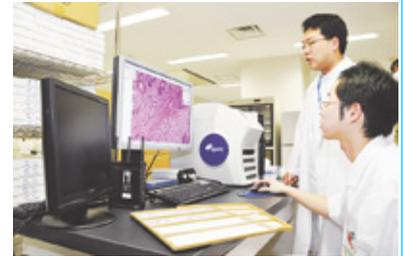


妊婦健診への助成を拡大

イキイキ・長生き「健康長寿」

がん予防・治療日本一

本年2月に開設した県立病院内の「がん医療センター」に胃がんの専門外来を設置し、チーム医療の導入による患者一人ひとりに応じた最先端のがん治療を提供します。また、各地域の「がん健診推進医」による企業等への働きかけなどにより、がん検診の受診率を高めます。



がんの組織片を解析するチーム医たち

元気な産業

※経済・雇用対策、新たな計画(観光・農業)に基づく施策は別掲

力強いプライドの農林水産業

元気な森づくり

安定供給が可能な資源としての国産材・県産材に期待が高まる中、新たな「森林・林業活性化プラン21」を策定します。

また、「未来へつなごう 元気な森 元気なふるさと」のテーマのもと、本年6月7日に「第60回全国植樹祭」を開催し、全国に向けて福井の魅力を発信します。



とれたての魚を販売する「おさかな直販市」です。

がんばる海業

原油価格の高騰や消費の減少など、水産業を取り巻く情勢の変化に対応するため、「ふくいの水産振興戦略」を策定します。また、地魚の消費拡大を図るため「おさかな直販市」を会場や回数を増やして実施しま

第60回全国植樹祭

開催日時／
平成21年6月7日(日)
式典会場／
一乗谷朝倉氏遺跡(福井市)
地域会場／
坂井市、大野市、越前町、若狭町



シンボルキャラクター
“ふっくらりん”



準備が進む植樹祭会場

元気な県土

高速交通時代のにぎわい交流まちづくり

高速交通ネットワークの整備促進

北陸新幹線は、昨年末の政府・与党WGで金沢～福井間、敦賀駅部の新規着工、南越駅部の設計等が合意されました。また、中部縦貫自動車道は3月13日に大野東・和泉間が事業採択され、3月28日には勝山・上志比間が開通しました。これらの高速交通ネットワークは、県政発展の基本となる社会基盤であり、1日でも早い完成に向け整備を促進します

モビリティ・マネジメント(交通手段の最適利用)の推進

過度なクルマ利用を抑制するため、現在、第2、第4金曜日に実施しているカー・セーブデーを毎週金曜日に拡大して実施するとともに、パークアンドライド駐車場の整備を進めます。



今年2月に完成した北陸新幹線福井駅部

元気な県政

夢と誇りのふるさとづくり

「理想県」福井を全国に

首都圏で興味・関心の高い「越前がに」や「恐竜」、子どもの「学力・体力日本一」を前面に打ち出し、本県の魅力を全国に発信します。また、平成21年度は、橋本左内、梅田雲浜没後150周年、横井小楠生誕200周年に当たる年であり、首都圏でのシンポジウムの開催など幕末福井の偉業を広めます。

ジェロントロジー(総合長寿学)を活用した集落総合支援の推進

中山間地域の高齢化が進んだ集落の住民が安心して暮らせる環境づくりを進めるため、住民の取組みをサポートする集落支援員の設置を支援します。また、鳥獣害対策としての電気柵の整備等における補助率の嵩上げなど、「高齢化が進んだ集落」に対して手厚く支援します。

※ジェロントロジー…高齢者や高齢社会の様々な課題の解決を目指す学問

「ふるさと貢献」の推進

ふるさと納税等による寄付金を活用し、寄付者や県民が「ふるさと福井」を想う気持ちをもち続けられるよう、ふるさとの良さを実感できる事業を行います。



ふるさと暮らしセミナー(東京)

「ふくい帰住」政策

平成21年度を「ふるさと帰住元年」と位置付け、新たに、「ふるさと帰住センター」を設置するとともに、春休みやゴールデンウィークなどに県内で実施する就職説明会に合わせ、都市圏から本県への無料の「Uターンバス」を運行するなど、ふくいへの帰住を促進します。

ふるさと納税活用予定事業

○親子が安心できる、子どもの放課後の活動場所を拡充する事業



放課後も安心「放課後子どもクラブ」

○全国での活躍を目指して、部活動に励む高校生を応援する事業

○山登り、船乗り体験、農業体験を通じて、心豊かな子どもたちを育てる事業

○全国植樹祭の開催を契機に、ふるさとを花と緑でいっぱいにする事業
福井ゆかりの作家の作品を購入し、ふるさと文学コーナーを充実する事業

行財政構造改革

県政のレベルアップ

職員数の削減やアウトソーシングの実施など、新行財政改革実行プランに基づく行革を、着実に実行し、財政の健全化を進めます。

また、資金調達を安定的に行うために、新年度から全国型市場公募債を発行するとともに、県と17市町が参加する「福井県地方税滞納整理機構」を4月に設立し、税の滞納整理を強力に推進します。

新年度から新たに実施する事業を中心に、県の主な施策についてアイデアやご意見をお寄せください。

重点募集期間／募集中～5月31日(日)まで

政策提案を募集!

事業内容／県ホームページ「皆様からの政策提案」または、県庁舎、各合同庁舎をご覧ください
提案方法／インターネット「ふくe-ネット」または、メール、FAX、郵送で
あて先・問合せ／県政策推進課 0776(20)0226

 **BACK**